



道後温泉本館改築120周年

～歴史と先人たちの思いが熱い松山の宝～

日本最古の温泉といわれる道後温泉の本館は、道後湯之町初代町長・伊佐庭如矢が改築に取り組み、明治27(1894)年4月10日に落成しました。歴史と先人たちの熱い思いが立ちのぼる松山の宝・道後温泉のあゆみと魅力に迫ります。

松山の宝・道後温泉

約3000年の歴史を誇る道後温泉は、足を痛めたシラサギが、湧き出る温泉で傷を癒やしたことが起源とされています。道後温泉には源泉が29本あり、現在は18本が利用されています。泉質はアルカリ性単純温泉で、湯温20～55度の源泉を混ぜ合わせ42度前後の適温にし、加水・加温を行わないかけ流しで提供されています。現在の本館は、明治5年に二層楼に改築された神の湯(一・二・三の湯)を全面改築し、明治27年4月10日に落成したものです。その後、昭和初期にかけて増改築が行われ、現在の姿になりました。



明治後期の本館



現在の本館



伊佐庭 如矢

道後湯之町が誕生して間もない明治23年、町では、老朽化していた道後温泉の建物の改築を計画しましたが、一部の町民から激しい反対運動が起こりました。初代道後湯之町町長・伊佐庭如矢は「100年先もこの町が繁栄するため、ここにしかない建物にして観光客をたくさん呼びたい」との思いで困難を乗り越え、本館改築を実現させました。他にも、道後までの鉄道の

伊佐庭如矢と松山

延伸や取り壊されかけた松山城の存続など、100年先を見据えた先見的な政策で、現在の松山に、多くの宝を残しました。

伊佐庭 如矢 4つの功績

③道後鉄道の開設



発起人の一人として、鉄道の開設に尽力

①松山城の公園化の実現



公園化により廃城令から城郭を救う

④道後公園(湯築城公園)の整備



市民や入浴客が散策できる回遊式公園を整備

②道後温泉本館の改築



壮麗な三層楼の本館に改築され、多くの入浴客でにぎわう

もう一つ 湯ざらし団子の考案



団子を3つ串に刺した「湯ざらし団子」を考案したのも如矢だといわれています

3,000年の歴史

付近から縄文中期の土器が出土し、当時から沐浴がなされていたと推定されることにより。

シラサギ伝説を描いた絵(作長谷川竹友、本館・神の湯2階席)



日本で唯一の皇室専用浴室、又新殿



万葉歌人・山部赤人の長歌が刻まれた神の湯(男)東浴室の湯釜

本館改築の歴史

年代	出来事
明治5(1872年)	一・二・三の湯を二層楼に改築
明治25(1892年)	養生湯の改築
明治27(1894年)	一・二・三の湯を改築し、現在の三層楼の道後温泉本館(神の湯)となる
明治32(1899年)	霊の湯、又新殿を新築
大正13(1924年)	養生湯を改築。玄関棟を移築
昭和10(1935年)	神の湯を曳移転し、区画を男女2室に改造。事務所棟増築
昭和29(1954年)	養生湯を1室に改造し、神の湯女子浴室とする。(従来の神の湯男女浴室は、両方とも男子浴室となる)
昭和36(1961年)	女関入母屋棟をこの間に増築
昭和61(1986年)	霊の湯女子浴室を増築(従来の霊の湯男女浴室は両方男子浴室にまとめる)

道後温泉本館の魅力

本館改築100周年となる平成6年、意匠的に優秀で歴史的価値が高い建築物として評価され、公衆浴場としては全国で初めて、本館は国の重要文化財に指定されました。また平成8年には、振鷺閣で6時、12時、18時の1日3回打ち鳴らされる「刻太鼓」が「残したい日本の音風景100選」として県内で唯一、選定されました。



湯上がりのお茶

道後温泉での湯上がりのお茶は、砥部焼の湯飲みを輪島塗の天目台に載せて提供されています。天目に載せてお茶を出すのは明治27年から続いています。

振鷺閣



本館屋上にある太鼓楼。畳2枚ほどの広さで、屋根にはシラサギが飾られ、周囲には赤いギヤマンがはめ込まれています。振鷺閣と命名したのも伊佐庭如矢です。

道後温泉本館 改築120周年 記念シンポジウム

120年前の伊佐庭如矢の功績をたえ、その精神を受け継ぎ、さらに100年先の道後温泉の発展を願い、記念シンポジウムを開催します。

【日時】4月10日(木)15時30分～17時10分
受け付け15時～

【会場】子規記念博物館(道後公園)4階講堂
【内容】脚本家・ジェームス三木さんの基調講演▼「本館を改築した伊佐庭如矢 初代道後湯之町町長の頭影と継承」をテーマにした鼎談▼道後のおもてなしなど
【定員】100人(先着順)

お問い合わせは、道後温泉事務所 ☎9216464・☎9343415